

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成20年8月21日(2008.8.21)

【公表番号】特表2004-502853(P2004-502853A)

【公表日】平成16年1月29日(2004.1.29)

【年通号数】公開・登録公報2004-004

【出願番号】特願2002-509417(P2002-509417)

【国際特許分類】

C 0 8 L 27/18 (2006.01)

C 0 8 F 214/26 (2006.01)

H 0 1 B 7/02 (2006.01)

H 0 1 B 11/00 (2006.01)

C 0 8 L 27/12 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 27/18

C 0 8 F 214/26

H 0 1 B 7/02 Z

H 0 1 B 11/00 J

C 0 8 L 27/18

C 0 8 L 27:12

【手続補正書】

【提出日】平成20年6月30日(2008.6.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

溶融加工可能な完全フッ素化ポリマー組成物であって、

a) (i) テトラフルオロエチレンから誘導された繰返し単位を 80 ~ 98 重量%までと、

(ii) ヘキサフルオロプロピレンから誘導された繰返し単位を 2 ~ 20 重量%までと、

(iii) テトラフルオロエチレンおよびヘキサフルオロプロピレン以外の別のモノマーから誘導された繰返し単位を 0 ~ 5 重量%までと、  
を含み、

ヘキサフルオロプロピレン単位から誘導された繰返し単位の重量割合が、前記別のモノマーの繰返し単位の重量割合より大きい、  
溶融加工可能なペルフルオロポリマーと、

b) 融点が前記フルオロポリマー a) の融点より少なくとも 20 高い高分子量の完全フッ素化ポリマーを、ペルフルオロポリマー a) を基準にして 0.01 ~ 5 重量%までと、

を含む溶融加工可能な組成物。

【請求項 2】

押出し成形により製造するための、請求項 1 に記載の溶融加工可能な組成物の使用。

【請求項 3】

絶縁体として、請求項 1 に記載の組成物を含む電気ケーブル。

## 【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００２

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００２】

ＦＥＰフルオロポリマーは、長い間知られてきており（ＵＳ－Ａ－２　９４６　７６３）、市販されている。ＦＥＰフルオロポリマーは、優れた耐熱性および耐薬品性を有する過フッ素化（完全フッ素化（perfluorinated））熱可塑性フルオロポリマーである。また、ＦＥＰフルオロポリマーは、低い損失係数（*dissipation factor*）を有する（ＥＰ－Ａ－４２３　９９５）。これら全ての特性により、ＦＥＰポリマーは、ケーブルワイヤ絶縁体用の、特に、例えばＬＡＮ（ローカルエリアネットワーク）で使用するプレナムワイヤケーブルとして既知の物用の絶縁材料として使用するのに重要である。絶縁プレナムケーブルを製造する加工速度は非常に速い。従って、このようなプレナムケーブルを製造するのに使用することができるＦＥＰポリマーは、一般に、必要とする機械的特性を失うことなく高剪断速度で加工できるものである。

## 【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００７】

本発明に従い、

- a) (i) テトラフルオロエチレンから誘導された繰返し単位を８０～９８重量％までと、
- (ii) ヘキサフルオロプロピレンから誘導された繰返し単位を２～２０重量％までと、
- (iii) テトラフルオロエチレンおよびヘキサフルオロプロピレン以外の別のモノマーから誘導された繰返し単位を０～５重量％までと、
- を含み、ヘキサフルオロプロピレン単位から誘導された繰返し単位の重量割合は、前記別のモノマーの繰返し単位の重量割合より大きい、溶融加工可能なペルフルオロポリマーと、
- b) ペルフルオロポリマー a) を基準にして、融点がフルオロポリマー a) の融点より少なくとも２０　高い高分子量の過フッ素化ポリマー（完全フッ素化ポリマー（perfluorinated polymer））を０．０１～５重量％までと、
- を含む溶融加工可能な過フッ素化ポリマー組成物が提供される。